

## 肥料費 30%減！りんどうの株養成期間一発施肥

## 【1 成果概要】

肥効調節型肥料（LPS200）を使うことで、株養成期間2年分の施肥が1回で済みます。  
25%まで減肥できるため、肥料費は最大でおよそ30%安くなります。

## （肥効調節型肥料（LPS200）って？）

- 1 肥効調節型肥料とは、肥料成分がゆっくり溶け出す肥料のことで、作物の生育に合わせた養分の供給を行うことができます。
- 2 LPS200 も肥効調節型肥料の一つです。県北、県南の圃場で調べたところ、7月に施肥した場合、翌年の10月までにどちらの地域でも90%程度溶け出していることがわかりました。

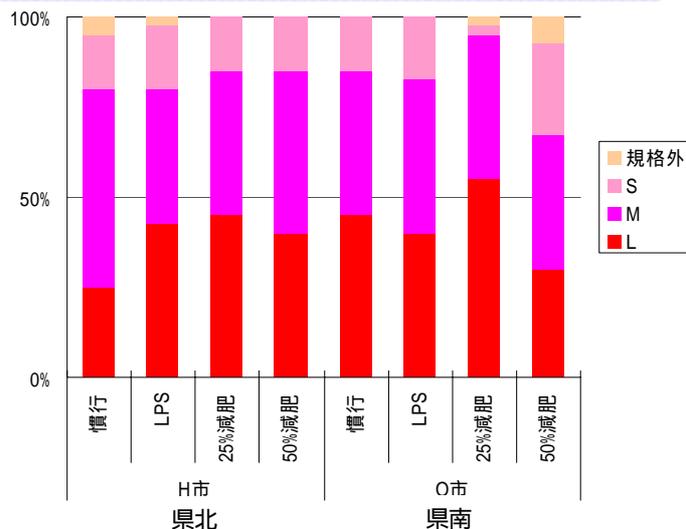
## （どんなふうにするの？）

- 1 LPS200 とリン酸、カリを合わせた配合肥料（窒素-リン酸-カリ：15-10-10）を定植前に150kg/10a（窒素成分22.5kg）施肥します。これは、施肥基準で定める2年間の株養成期間の施肥量の25%減肥量にあたります。
- 2 あとは2年間施肥を行う必要はありません。マルチを切ったり剥いたりしての追肥、畦の除草などの面倒な作業から解放されます。
- 3 3年目からは慣行どおりの施肥を行きましょう。

肥料	(1)施肥回数			(2)窒素施肥量(kg/10a)			(3)肥料費低減率(%)	
	定植時	2年目	合計	定植時	2年目	合計	対一本勝負	対専用肥料
LPS200	1	0	1	22.5	0	22.5	29	17
参考)りんどう一本勝負	1	1	2	10	20	30		
参考)りんどう専用肥料	1	2	3	10	12+8	30		

## （肥料を減らして大丈夫？）

十分な生育が確保でき、出荷規格も低下しません。



## 【2 注意することは？】

土壌の種類や気象条件、品種などによっては肥料の効き方が異なる場合がありますので、その際は生育に応じた管理が必要になります。

## 【3 効果】

りんどうの株養成期間における省力・低コスト化につながります。

## 【4 適応対象】

県下全域のりんどう生産農家等